

耐寒性が強く、煎茶、かぶせ茶及び玉露として品質が優れる 早生の緑茶用新品種「きらり31」

温暖化が進むなか、近年、初冬期の急激な温度低下から裂傷型凍害や越冬芽の凍害が頻繁に起こるようになり、早生種を中心に幼木の枯死や収量の低下が懸念されています。また、消費者の嗜好の多様化やリーフ茶離れによる緑茶の消費減退等から、荒茶価格の低迷が続き、より高品質で付加価値の高い品種の育成が強く望まれています。そこで、宮崎県総合農業試験場茶業支場では耐寒性を備え煎茶のほか玉露やかぶせ茶に加工しても品質が優れる早生の緑茶用新品種「きらり31」を育成しましたので、その概要について紹介します。

☆ 技術の概要

1. 「きらり31」は、やや早生で耐寒性が強く色沢が優れる「さきみどり」を種子親、早生で旨味が強く製茶品質に優れる「さえみどり」を花粉親として1994年に交配した実生群の中から選抜した系統です（写真）。
2. 一番茶の萌芽期及び摘採期は、「やぶきた」より3～4日程度早い早生種です。生葉収量は一、二番茶ともに多収で、「かなやみどり」以上です（表1）。
3. 製茶品質は一、二番茶とも「やぶきた」や「さえみどり」よりアミノ酸含量が高く、煎茶として色沢が優れ、内質も温和な香味で「さえみどり」並に良質です。玉露やかぶせ茶に加工しても「さえみどり」と同等以上に優れます（表1）。
4. 耐寒性は赤枯れや越冬芽の凍害は「やぶきた」や「さえみどり」より強く、裂傷型凍害も強です（表1）。耐病虫性は輪斑病には強いですが、炭疽病、赤焼病、もち病、クワシロカイガラムシには弱いです。

表1 「きらり31」の特性



写真「きらり31」の一番茶の新芽

品種名	早晚性	樹姿	樹勢	耐寒性			一番茶(月/日)		収量		製茶品質		
				赤枯れ	裂傷型凍害	越冬芽の凍害	萌芽期	摘採期	一番茶	二番茶	煎茶	玉露	かぶせ茶
きらり31	早生	中間	強	○	◎	○	-4	-3	184	162	103	115	118
やぶきた	中生	やや直立	中	□	□	○	0	0	100	100	100	100	100
さえみどり	早生	中間	やや強	△	△	△	-6	-2	127	150	101	116	110
ゆたかみどり	早生	中間	強	△	×	×	-7	-4	93	111	-	-	-
さやまかおり	やや早生	やや直立	やや強	○	○	-	-2	0	119	114	-	-	-
かなやみどり	やや晩生	やや開張	やや強	○	◎	◎	4	3	142	147	-	-	-

注 1) 萌芽期、摘採期は、「やぶきた」より早いものを「-」、遅いものを「n」で表示
 2) 収量、製茶品質の各項目は対「やぶきた」100とした時の指数、玉露は福岡県、かぶせ茶は三重県、高知県による試験成績
 3) 耐寒性、耐病虫性の評価は強◎ やや強○ 中□ やや弱△ 弱× 極弱××

☆ 活用面での留意点

1. 「きらり31」は早生種ですが、耐寒性に優れるので、防霜施設が整っている中山間地域を含む全国の茶産地で栽培が可能です。
2. 輪斑病には強いので防除の必要はありませんが、炭疽病、もち病、赤焼病には弱いので、発生地域では防除が必要です。クワシロカイガラムシについても弱いので防除が必要です。
3. 詳しいことは、宮崎県総合農業試験場茶業支場（TEL:0983-27-0355）へお問い合わせください。（日本政策金融公庫農林水産事業本部 テクニカルアドバイザー 吉岡 宏）